

東京工芸大学第1回「私立大学研究ブランディング事業」外部評価委員会開催報告書

日時：2017（平成29）年9月29日（金）18:00～20:00

場所：レンブラントホテル厚木 3階 三峰
（神奈川県厚木市中町二丁目13番1号）

出席者

（1）外部評価委員（出席者）氏名五十音順

荒井英明氏	厚木市 産業振興部長
岡田幸勝氏	株式会社光学技研 代表取締役
面谷信氏	一般社団法人日本画像学会 会長
佐後佳親氏	厚木市立小鮎中学校 校長
島田文生氏	公益財団法人コニカミノルタ科学技術振興財団 常務理事
高橋晋也氏	一般社団法人日本色彩学会 会長
時末誠氏	厚木市立小鮎小学校 校長
中島淳一郎氏	神奈川県立厚木高等学校 総括教諭
三矢輝章氏	株式会社リコー 研究開発本部A P T研究所 技師長

（2）学内関係者（出席者）

義江学長、野口色の国際科学芸術研究センターセンター長・芸術学部教授、内田同センター副センター長・工学部教授、酒井大学事務局長、山口教育研究支援課長、教育研究支援課職員2名（事務局）

議案（審議・協議・報告事項等）

1. 挨拶、委員紹介

初めに、学長の挨拶及び平成28年度評価表の説明があり、その後、教育研究支援課長から、机上配布資料の確認及び資料をもとに外部評価委員並びに大学関係者の紹介があった。

2. 審議事項

1) 議題1

①2016（平成28）年度事業実施実績報告及び評価の件

ア. 平成28年度私立大学研究ブランディング事業 申請関連

学長より、資料をもとに、事業に申請した経緯、事業計画書（概要、事業内容、事業実施体制、年次計画、選定状況、他）の説明があった。

[年次計画]

➤ 目標

- ① 「色の国際科学芸術研究センター」施設基本計画完了
- ② 社会的・経済的意義および特色のある重点研究テーマの選定完了

➤ 実施計画

- ① 実験室とギャラリーを備えた「色の国際科学芸術研究センター」の要求項目を整理し、それらを反映させた基本計画を行う。なお、同センターは既存建物の内装改修により整備する。（大学予算で整備するため、研究施設の補助金申請はしない。）
- ② 色に関する工・芸共同研究の学内公募を行い、重点研究テーマを選定する。
公募研究分野は「色と心理や感情」「色と教育」、「色と健康・医療・介護」、「色と文化財・芸術作品のデジタルアーカイブ保存」、「色とメディアアート」、「色と建築」、「光学素子、デバイス開発」とする。従来からの「工・芸共同研究」の予算枠を大幅に拡大するとともに、選定された重点研究テーマには重点的に予算配分を行う。

- 目標達成の測定方法
 - ① 年度末までに「色の国際科学芸術研究センター」の基本設計図の作成が完了していること。
 - ② 年度末までに次年度から予算配分を行う重点研究テーマが決定されていること。
- イ. 平成28年度私立大学研究ブランディング事業 研究プロジェクト

色の国際科学芸術研究センター副センター長（以下、「副センター長」）より、資料をもとに平成28年度の目標である研究テーマの選定（公募、審査、採択状況、他）について説明があった。
- ウ. 平成28年度私立大学研究ブランディング事業 シンポジウム

学長より、資料をもとに、2017年3月18日（土）に実施したシンポジウムの説明があった。
- エ. 平成28年度私立大学研究ブランディング事業 平成28年度の進捗状況

学長より、本年5月に文部科学省に提出した書類をもとに、事業成果、補助金の使用状況等について説明があった。
- ②その他

特になし。

2) 議題2

- ①2017（平成29）年度事業実施状況報告について
 - ア. col. lab（カラボ）ギャラリー<

色の国際科学芸術研究センター長（以下、「センター長」）より、資料をもとに、厚木キャンパス12号館内に開設し、7月22日（土）にオープンした col. lab ギャラリーについて、展示内容等の報告があった。
 - イ. 私立大学研究ブランディング事業 連携事業用ロゴ

野口センター長より、資料をもとに、連携事業用ロゴマークを作成した旨の報告があった。
 - ウ. ホームページ特設サイト

学長より、資料をもとに、東京工芸大学公式ホームページ内に私立大学研究ブランディング事業特設ウェブサイトを掲載した旨の報告があった。
 - エ. イベント関連

学長より、資料をもとに、私立大学研究ブランディング事業に関連したイベント（学生の作品展、写大ギャラリー写真展、学生食堂関連フェア）の開催報告及び10月・11月に開催予定の体験ワークショップの報告があった。
 - オ. イベント 今年度の予定

学長より、資料をもとに、今年度開催のイベントについて報告があった。
 - カ. 海外の大学との連携

学長より、資料をもとに、中国文化大学（台湾）と協定を締結したとの報告があった。
また、他の3大学に関しては、今後、協定締結を進めて行く予定であるとの報告があった。
- ②私立大学研究ブランディング事業 各研究プロジェクト進捗状況

色の国際科学芸術研究センター副センター長（以下、「副センター長」）より、資料をもとに、16件の各プロジェクトの進捗状況について、下記のとおり報告があった。

 - ・プロジェクトは研究分野ごとの8グループ（①色と心理や感情、②色と教育、③色と健康・医療介護、④色と文化財・芸術作品のデジタルアーカイブス保存、⑤色とメディアアート、⑥色と建築、⑦光学素子、デバイス開発、⑧その他）に区分されており、特設ウェブサイトにも掲載し、広く一般に告知している。
 - ・3～4ヶ月に1回、各プロジェクトは報告書の提出と発表（報告）を義務付けており、進捗が適正に管理できるように務めている。
- ③その他
 - ア. 「色の国際科学芸術研究センター」管理運営委員会

副センター長より、資料をもとに、プロジェクトメンバーによる管理運営委員会を開催し、様々な審議を行っている旨、報告があった。
 - イ. 私立大学研究ブランディング事業 コアメンバー打ち合わせ

副センター長より、資料をもとに、コアメンバーの役割（企画・立案及びプロジェクトメンバーへの告知、他）の説明及び定期的な打合せを実施している旨の報告があった。

ウ. メディア掲載記事・新聞広告

学長より、資料をもとに、私立大学研究ブランディング事業の掲載記事及び新聞広告等について報告があった。

その他、下記の質疑応答がなされた。

- ・委員より、現在、学内で選定、推進している16件のプロジェクトのうち、工・芸が連携して申請している割合について、また、工・芸の連携は各プロジェクトで個別に連携するのか、あるいは包括的に連携するのかの質問があった。

副センター長より、現在のプロジェクトの構成メンバーだけで判断すると2件である。申請当初は時間の制約上、工・芸の連携を行うのが難しかったが、研究を進める上で、さらに連携を行いたいとの回答があった。

センター長より、包括的な連携を推進していきたいとの回答があった。

- ・委員より工・芸の連携した形は、この事業の一つあり得る方向性でもあるので、例えば、これらの連携に関しては重点項目などとして進めていく方策についてのアドバイスがあった。

- ・委員より、今年度の予算と16件のプロジェクトに配分された額（総額）の適切性についての質問があった。

学長より、当初予算より配分を2割程度上積みしたが、全体から見て問題のない適性な範囲であるとの回答があった。

- ・委員より、この事業実施の将来像と、その後のビジョンについての質問があった。

副センター長より、以下の回答がなされた。

現在、学内で別途進めている文部科学大臣が認定する共同利用・共同研究拠点（風工学研究拠点）形成事業の外部評価委員会に本学工学研究科長の立場で出席しているが、ほぼ同様の意図の質問が外部評価委員よりなされたことがある。大きなプロジェクトは多くの予算を必要とするため、完了時には、独り立ちできる方策が必要であると、本学も認識している。

現時点では、研究の初年度であることもあり、実効的な計画が立案できていないが、発展的に解消できるように、努力したい旨の回答があった。

- ・委員より、「画像」分野は学際的な領域にあるため、社会においては多くの認知された分野があるが、アカデミックな視点、例えば「科学研究費助成事業（科研費）」では、これらになじむ、分野・分類がない。是非、この事業を通じて、これらの分野の確立と発展に寄与していただきたいとのコメントがあった。

- ・委員より、この事業や個々のプロジェクトに対する評価の指針や指標についての質問があった。

副センター長と教育研究支援課長より、今年度のこの事業の募集において、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業委員会が作成し、同省のホームページ上に公開された「ブランディング戦略のイメージ」および「ブランディング戦略に利用できる手段の事例」（別途資料）を、第一の指標として進める旨の説明がなされた。この指標は、本学が申請した内容と定性的にも定量的にも整合性が高いことの説明があった。

- ・委員より、これらの指標に加え、特に、個々のプロジェクトの評価は難しいことと、何より労力がかかるので、成果に対する「当事者の評価」と「外部の方の評価」を同時に行うことで、効率良く精度の高い評価になるとのアドバイスがあった。

- ・委員より、「色といえば東京工芸大学」というイメージについて、アンケート調査を実施して、この事業の開始時とその経過ならびに終了時の評価を時系列に沿って取得していくことが必要であるとのアドバイスがあった。関連して、他委員より、特設ウェブサイトのアクセス数やオー

ブンキャンパスなどの参加人数の推移、この事業に対する認知度の調査なども有効な指標であるとのアドバイスがあった。

- ・委員より、小中学生向けの研究成果などを積極的にアピールしてもらいたい旨の要請があった。また、col. lab の入場者における小中学生の割合についての質問があった。教育研究支援課長より、現時点では、延べ人数のカウントに留まっているため、今後、そのような属性内訳についてもデータ取得していく旨の回答がなされた。
- ・委員より、企業側からの立場より、研究成果を事業化できるところまで行くと、5年間のブランディング事業終了後の継続性も含めて、この事業がより意義のあるものになるとのアドバイスがあった。また工学部と芸術学部の融合を期待し、かつ特許取得等の成果も期待するとのご意見があった。

3) 議題3

大学の理念・目的及びポリシーと事業との適切性の確認について

大学事務局長より、資料をもとに、外部評価委員に適切性について意見を聴収した結果、特に問題がなく適切であるとの確認がなされた。

教育研究支援課長から、外部評価委員に対し、これまでの説明をもとに本事業に対する評価（平成28年度）について配布した「評価表」に記入・提出の依頼がなされた。

全委員からの評価表の提出の後、最後に学長より閉式の挨拶がなされ、本委員会は終了となった。
(※評価集計結果は別紙に記載)

以 上

2017(平成29)年9月29日

回答者:外部評価委員9名

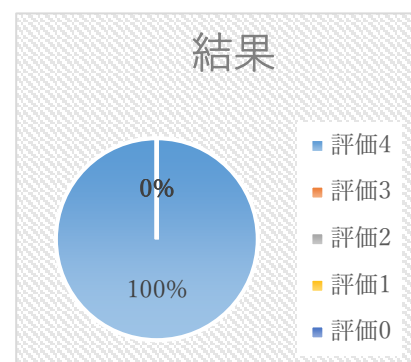
平成28年度「私立大学研究ブランディング事業」外部評価委員会・評価集計結果

① 「色の国際科学芸術研究センター」施設基本計画完了

実験室とギャラリーを備えた「色の国際科学芸術研究センター」の要求項目を整理し、それらを反映させた基本計画を行う。なお、同センターは既存建物の内装改修により整備する。(大学予算で整備するため、研究施設の補助金申請はしない。)

▽評価結果(9名回答/回答率100%)

評価4	十分行っている	9名
評価3	行っている方である	
評価2	十分ではないが行っている	
評価1	ほとんど行っていない	
評価0	全く行っていない	

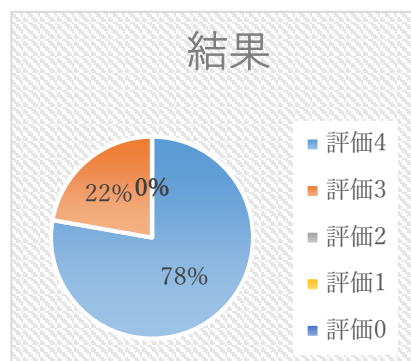


② 社会的・経済的意義および特色のある重点研究テーマの選定完了

色に関する工・芸共同研究の学内公募を行い、重点研究テーマを選定する。公募研究分野は「色と心理や感情」「色と教育」、「色と健康・医療・介護」、「色と文化財・芸術作品のデジタルアーカイブ保存」、「色とメディアアート」、「色と建築」、「光学素子、デバイス開発」とする。従来からの「工・芸共同研究」の予算枠を大幅に拡大するとともに、選定された重点研究テーマには重点的に予算配分を行う。

▽評価結果(9名回答/回答率100%)

評価4	十分行っている	7名
評価3	行っている方である	2名
評価2	十分ではないが行っている	
評価1	ほとんど行っていない	
評価0	全く行っていない	

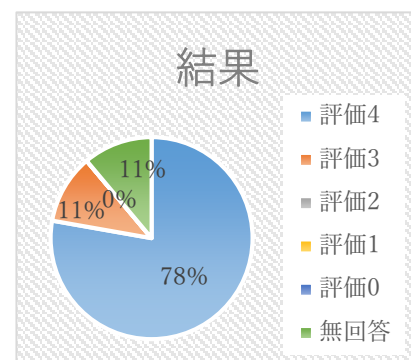


③ ブランディングへの取り組み（※追加目標）

工学部と芸術学部を擁する本学ならではの取り組みについて、積極的に情報発信を行う。

▽評価結果(8名回答/回答率 89%)

評価 4	十分行っている	7名
評価 3	行っている方である	1名
評価 2	十分ではないが行っている	
評価 1	ほとんど行っていない	
評価 0	全く行っていない	
無回答		1名



本事業について、ご指摘・ご意見等ございましたら、ご記入ください。

7名記入

- ① 本事業をきっかけに、色彩、画像の分野が文科省等においてもより明確な位置付けを持ち、科研費等の取得がよりやりやすくなるような効果も大いに期待しています。
- ② 色の科学、先端の技術について興味ある中学生は多数います。地域の大学が発信する研究に触れる機会を提供していただければと思います。ワークショップやギャラリーへの参加や中学校の美術や総合的な学習の時間で大学と連携できたらと思います。地元の大学のブランドイメージアップに期待します。
- ③ 「あるべき姿」(5年後)を定性的でも良いので表現して欲しい。
- ④ 各研究プロジェクトの成果を、いかに一般の方々、あるいは小中学生にも分かってもらい、興味をもってもらえるように HP 特設サイトで発信するかが重要と思います。センター長が、collab での展示で同様の必要性に言及されていましたが、HP はそれ以上に重要と思います。また、とくに工学系の研究を「楽しく」見せることは、工芸連携の第一歩になると思います。
- ⑤ 日頃から、本小学校の PTA 活動に対して、また学生さんたちに実習、ボランティア等御協力いただいております。ブランディング事業に対する貴学のお考えは、まさに貴学の教育方針とマッチしたものだと思います。今後、本校の児童たちも見学等させて頂くと思いますので、よろしく願いいたします。
- ⑥ 貴学の特色を生かした素晴らしい計画だと思います。最終年度に貴学がどのように発展しているのか楽しみです。教育関連の研究もされているようなので、高校でも扱える教材を開発して、高校に提供するのも一つの手かだと思います。数年前にある国立大学理工学部が行っておりました。

高校教員と高校生の認知度が高まるのではないかと思います。

⑦ 平成 28 年度の成果(計画に対する達成)は十分と思います。今後の進捗を期待致します。

以上